

山陽小野田市病院改革検討委員会 議事録

開催概要

会議名	山陽小野田市病院改革検討委員会
開催日時	平成29年11月27日(月) 19時00分から20時20分まで
開催場所	3階大会議室(山陽小野田市民病院)
開催形式	公開

委員(敬称略)

出席者	(外部委員) 中田範夫、西村公一、河村芳高、篠原正裕、兼本裕子 (院内委員) 河合伸也、山本智久、藤岡顕太郎、藤谷圭子、西村篤弘
欠席者	(院内委員) 豊重充広:業務の都合のため

事務局

事務局	堀川順生、岡原一恵、和氣康隆、藤本義忠
-----	---------------------

会議次第

1 局長あいさつ
2 議題 (1) 平成28年度実績の点検・評価について (2) その他

検討委員会における質疑及び回答(要約)

別紙のとおり

1 平成28年度実績の点検・評価について

- ① 入院患者の減少は全体の傾向である。外来患者の減少の要因は何か。

外来患者数の減少の要因は、薬の長期投与です。患者の実数は変わっていませんが、2ヶ月、3ヶ月の場合もあることから減少しました。

- ② 指標がたくさんあるが、大事なものは医業収支と経常収支がどうなっているかである。市民病院の役割もあり、経済的なものを度外視しても実施しなくてはならないものもあるが、機能としてどの指標を重要視しているか。

やはり外来と入院の患者数が大事だと考えます。もちろん、経常収支が赤字にならないことは必要ですが、できるだけ多くの方に利用していただけることを重視しています。

- ③ 研修医の受入れについて、今後は医師の確保が困難になると思われる。大変とは思いますが、受入れることにより就職してくれる可能性もあるので、少人数でかまわないので絶やさず受入れをしていただきたい。

大学だけでは研修は難しいと考えています。地域医療の観点からも大学の支援につながるようにしたいと考えています。

- ④ 平均在院日数が前年度の実績よりも増えている理由は何か。財務の点よりもサービスの提供を重視しているということか。

当院はDPCではないので21日以下であれば問題ないと考えています。経常収支の黒字化は当然と考えますが、市民病院では他院で実施していない診療を担うことも大事だと考えています。

- ⑤ 財務については、どのようにして黒字化するか戦略を立てることになる。診療科ごとの実態を把握することで財政面の課題が可視化されるのではないか。

昨年度から経営改善のための業務を行いました。その中で現れた課題について、現在取組みを進めているところです。

- ⑥ 現在、地域医療構想の議論がされており、市内の3病院の意向調査の結果は現状維持とのことであったが、今後についてどのように考えているか。

他病院の動向も注視する必要があります。この1、2年が重要だと考えています。